

令和元年度★学校評価(7月)の結果を振り返って

★学校評価アンケート(7月)のご協力ありがとうございました。(回答率90%)

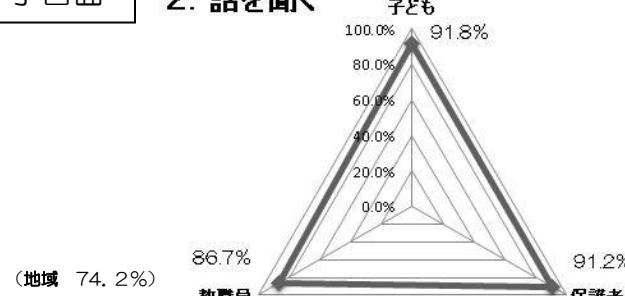
★グラフのポイントは「よくできている」「できている」を合わせたポイントです。

★今年度のアンケートは、子ども、保護者、教職員の自己評価となっています。

学校では全体的な課題を意識しながら、ひとりひとりに対応した支援、指導を続けていきます。ご家庭でも、よりよい子育ての指針にしていただければと思います。

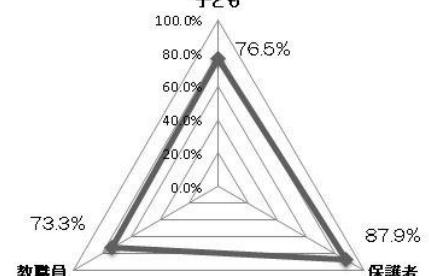
学習面

2. 話を聞く



児童	先生や友だちの話をよく聞いている。
保護者	家庭で、人の話をよく聞くように声かけをしている。
教職員	人の話をよく聞くように指導している。
地域	子どもたちは、人の話をよく聞いている。

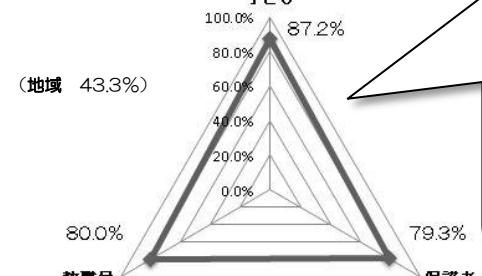
3. 考えや思いを伝える



児童	先生や友だちに自分の思いや考えを伝えている。
保護者	家庭で、自分の思いや考えを伝えるように促している。
教職員	自分の思いや考えを伝えられるよう(発表できるよう)に工夫して指導している。

生活面

8. 人権意識

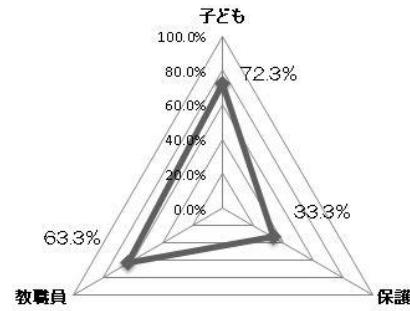


◎児童、保護者、教職員ともに8割が言葉づかいや行動を意識できています。

△地域の方の評価は43.3%と低く、子どもたちの姿を客観的に見て、まだ言葉づかいや行動に課題が残ることがわかります。

→★場面に応じた適切な言動を、その都度、学校、家庭、地域で連携して、具体的に学ばせていくたいと思います。

6. 読書

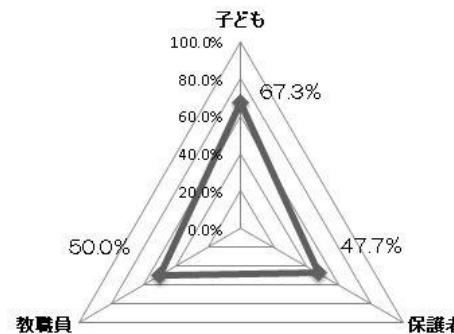


児童	進んで読書している。
保護者	家庭で、進んで読書をするような環境づくりを心がけている。
教職員	読書の習慣が定着するように、積極的な図書室利用や読書ノートの活用などに取り組んでいる。

◎9割以上の児童が話を聞いていると自己評価しています。
◎全校での集会や授業の様子からも、先生の話をしっかりと聞こうとする児童の姿が見られます。
△自分の考え方や思いを伝えることについては、約25%の児童ができていないと感じており、自分の考え方を持つことや人前で発言することに苦手意識のある児童も少なくありません。
→★授業の中でじっくりと考え、話し合う場を設定し、話し合い活動のさらなる充実を図っていきたいと思います。

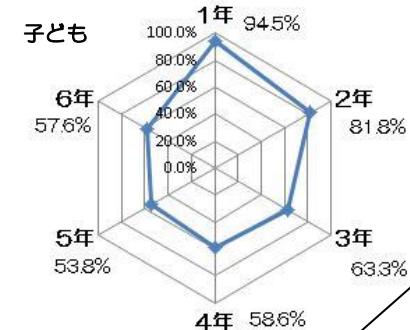
◎学校では朝読書(朝の10分間)の習慣が定着しています。読み聞かせや読書ノートの利用などを通して、積極的に本を読んでいる児童は昨年より6%増えています。
△保護者の評価から、家庭で読書をする環境や時間は十分に整っておらず、家庭での読書習慣は定着していないと考えられます。
→★学校の図書室や久我の杜図書館の積極的な利用を促し、読みたい本、読んでいる本が常に手元にあるようにすることで、家庭でも学校でも時間を見つけて読書する習慣を身につけさせていきたいと思います。

5. 家庭学習



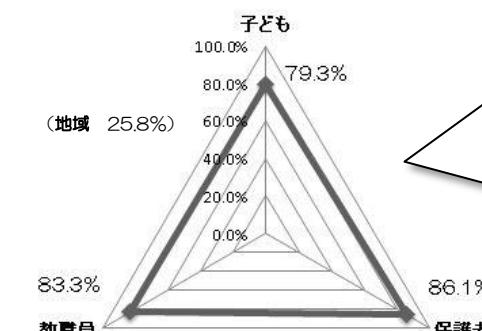
児童	毎日15分間×学年ほどの家庭学習をしている。
保護者	家庭で、毎日15分間×学年ほどの家庭学習の習慣が定着するように働きかけている。
教職員	毎日15分間×学年ほどの家庭学習が定着するように指導している。

毎日15分間×学年ほどの家庭学習をしている。



◎本校では毎日の家庭学習時間の目標を15分間×学年としています。家庭学習では、漢字練習、計算練習、音読、自主学習等に取り組んでいます。
△学年別に見ると、15分間×学年の家庭学習は、高学年になるほど時間が長くなり、実現が難しい傾向があります。
→★学習に自主的、計画的に取り組む力を身に付けていくために、自主学習の取り組みを低学年のうちから少しづつ進めていきたいと思います。特に高学年は中学校での学習スタイルとうまく接続していくよう、内容についても充実させていきたいと思います。

12. あいさつ



児童	自分からあいさつをしている。
保護者	家庭で、進んであいさつできるように働きかけている。
教職員	子どもたちがすんとあいさつできるように働きかけている。
地域	子どもたちは、自分からあいさつをしている。

◎児童の自己評価は昨年度よりもわずかによくなりました。

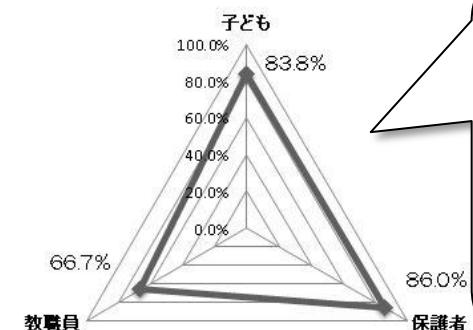
△地域の方の評価と、児童の評価には大きな差が見られます。

(地域の方からのご意見)

・挨拶をする児童は少ない。無視されることも多い。
・大人(親・教師)もあいさつをしない人を見かける。子どもたちの見本となる大人になっていきたい。

→★あいさつは人間関係を円滑にする生活スキルです。学校、地域、家庭で誰に対しても自分から気持ちのよいあいさつができる子どもを育てたいと思います。そのためにも、大人がよいお手本を示していくことが大切です。

13. 生活習慣



児童	早ね・早起きをして、朝ごはんを食べている。
保護者	家庭で、早寝・早起き、朝ごはんを習慣づけている。
教職員	早寝・早起き、朝ごはんなど基本的な生活習慣が定着するように、子どもや家庭に働きかけている。

◎8割以上家庭で早寝・早起き・朝ごはんの習慣を意識できています。

△寝る時刻が遅いため、十分な睡眠時間が確保されず、学校で不調を訴える児童や、授業に集中できない児童も見られます

→★生活リズムが崩れがちな長期休業や連休中も、規則正しい生活を送ることができるよう、家庭と協力しながら児童に意識させていきたいと思います。